

激減！ オーストラリア日本人訪問者数 80万人から30万人へ

株式会社オズ・プロジェクト

岡田 繁

オーストラリア人気低迷の現状

今年の日豪観光交流年である。オーストラリアの観光の今後について私なりに検証してみたい。

1997年は貴乃花が全盛期でタマゴッチが流行り、ダイアナが亡くなった年である。オーストラリアにとって日本はNO1の観光受入国（80万人）だったが、2011年には5番目（30万人）になってしまった。（ちなみに順番は、1位ニュージーランド）最盛期は、カンタス航空が成田、名古屋、大阪主要都市に加え、福岡、札幌からの直行便をシドニー、メルボルン、パース、ブリスベン、ケアンズ、ダーウィンに運航していたが現在ではカンタス航空と日本航空の直行便はシドニーのみの運航。LCCのジェットスター航空が大阪と成田からケアンズとゴールドコーストに直行便を飛ばしている。年末年始の大手旅行社の新聞広告にもオーストラリアは殆どない状態。クラスメイト吉岡君の道祖神ではバイクのツーリングツアーが年間300人送客していたが、今や0になってしまったとのこと。仲間達のハネムーンはオーストラリアが定番だったが、それも遠い昔の話。エリマキトカゲに代わる珍獣よ出てきておくれ！！

2012年9月、ワイルドフラワー見学ツアーでモンキーマイヤーを訪問。久しぶりに30人ほどの日本人グループと遭遇する。街中でなく、こんな場所でと少し驚く。単なる観光でなく**目的のある旅は健在なのか？**

パース行きの機内では8人程のシニアグループと一緒にいる。話をするとパースとグレートバリアリーフを8日間で旅するという忙しいスケジュールであった。パッケージツアーから個人旅行のスタイルが増えていることを感じた。とくに**旅慣れたリーダーが仲間を連れて行く旅が増えている。**

私の出身白井市の友好都市への中学生派遣は1993年より継続中で693人の中学生がオーストラリアへ506人のオーストラリア人が白井へ来ている。おそらく日本一交流が盛んな市である。メルボルンのホテル宿泊をカットするなど旅程の内容は縮小しつつあるが姉妹都市のイベントは観光と違い流行り廃りがないらしい。

年間8000人前後の若者がワーキング・ホリデー制度を利用してオーストラリアを訪問している。留学も多く、この国の訪問者の年齢層別では**15歳から29歳までが断トツの1位で38%を占めている。**また、彼らはリピーターとしても貢献している。オーストラリアにとってこの制度がなかったら、どれほどまでに日本人客の数字が落ちていたことか。若者は神様です。

オーストラリアの魅力はなんだろう？

オーストラリアは若い世代から絶対的な評価を受けている国である。

美しいビーチを中心として大自然、治安が良く清潔感にあふれた町並み、そして何より、自由な雰囲気の中で生活を楽しんでいる人々の暮らしぶり。あわただしい日本の生活になじんだ人には、この国を包むゆったりとした時間の流れと、恵まれた自然とともに暮らす「豊かさ」に憧憬の思いを抱かずにはいられないだろう。

オーストラリアには世界中を知る「旅の達人」というべき人が好むであろう地域が多いし、プライベート感覚あふれるヨーロッパの高級マナーハウスのようなホテルも多く存在する。ビーチを中心とした若者好みの町以外にも、旅心を満足させてくれる美しい町はたくさんあるし、少し足を延ばせば、世界遺産も数多く、他の国には見られない大自然の美しさを堪能することができる。

ゆっくりとした時が流れる国での旅らしく、あくせくせずにオーストラリアを旅すると、ここは単に若者にとってパラダイスだけではなく、世界中を知り尽くした人々にも絶好の訪問地であることがわかる。

オーストラリアは、これからの時代が求めるであろう旅の姿を満たす要素を潜在的に持ち合わせていることが、おわかりいただけると思う。**それは、駆け足で各地を見て回る旅からの脱却である。**暮らすように旅する長期滞在型の旅やセルフ・ドライブといった自分流の旅の実現だろう。シニア・トラベラーの急増、リピーターの増加による成熟した日本の海外旅行マーケットに対して、オーストラリアはそういった提案を最もしやすい国であり、満足度の高い旅を提供できる国である。

暮らしてみたい国と旅してみたい国が、並列に語られるようになってきた今、オーストラリアはその最前線でもっとも脚光を浴びている国なのだ。

オーストラリア「大人の旅」への誘い 菊間潤吾（監修者）より

まさに、私が言おうとした内容だったので抜粋させていただいた。菊間さんは、アデレードのガイドブックなども書かれており一度お会いしたい方である。セルフ・ドライブは私も一押しである。**この国を旅するには自由なセルフ・ドライブが一番である。**私の知人の夫婦は50歳で教員と市役所職員の職を捨てて、大蝙蝠の研究がしたくてキャンピングカーでオーストラリア一周の旅に出た。それはそれは、素晴らしい旅だったと話している。大蝙蝠や何億年も前から生息している植物が街から車でわずかの場所で観察することができるのが大きな魅力らしい。

イタリアが好きで50回以上訪問しているオーストラリア政府観光局のスタッフと話

をした時に言われたことは、シドニー、メルボルンなどの街々は確かに美しいが、世界中には似たような素晴らしい場所が沢山ある。オーストラリアが誇れる場所、それは、カカドウ国立公園、エアーズロック、タスマニア、そしてカンガルー島である。これらは、世界中を探してもない場所、これらの場所は車でなければ行けない場所である。交通ルールが日本と似ているので自らの運転もアメリカのような違和感がない。

そして私がオーストラリアの凄いと感じている事は、**200カ国以上の移民が喧嘩もせずに仲良く暮らしていることである。それぞれの移民の国の文化、良いものは積極的に取り入れる懐の深さが好きである。**例えば、日本では西洋医学以外は認められていない風土があるが、オーストラリアには良い医療は全て取り入れる統合医療が盛んである。それに治安が良く、法の下では誰でも平等である。時差がなく、季節が逆なのはシニアの人たちにとっても魅力的である。

私とオーストラリアとの関わり

大学卒業後、体育教師になる前に世界を観たく、ワーキング・ホリデー制度で初めてのオーストラリアへ訪問する。ヨット好きの私はアメリカンズ・カップイヤーの西オーストラリアを訪問地と決めて渡豪。日本からの鮪船相手の仕込みやでアルバイトをする。1000ドルで購入した車や長距離バスを利用して、東海岸とエアーズロック周辺を旅する。牧場でも住み込みのバイトなどをする。

帰国後、社団法人日本ワーキング・ホリデー協会の職員としてオーストラリアへ行く若者への情報提供、来日しているオーストラリア人に職業の紹介をする。現在オーストラリアには、この時の仲間が旅行業の仕事をしている。

その後、オーストラリア誕生の若者相手の旅行会社エステーエートラベルに転職。外資系の旅行会社は、オーストラリア人やワーキング・ホリデー、留学帰りのスタッフが多く自由な雰囲気であった。ここで、私はグループの営業をさせていただく。初めての添乗はゴールドコーストへ建設会社の社員旅行であった。初めてのツアー企画は、メルボルンマラソンツアー（結果は私と大学時代の同級生の二人）翌年は、「走る添乗員が同行します！」で50人近くの集客に成功。日本体育大学ライフセービング部230名をマンリービーチで合宿させた仕事が一番の思い出である。それ以外に、中央学院大学ゴルフ部のパース合宿、大学生準公式野球チームのゴールドコースト・シドニー遠征、東海大付属菅生中学校のダーウィンへの修学旅行、松戸市・沼南町・白井市の姉妹都市訪問ツアー、カウラへ高校生野球チームやラグビーチーム派遣。オーストラリアに訪問する機会がずいぶん増えた。

平成15年6月10日オーストラリア専門旅行会社オズ・プロジェクトを設立。

「クラブ・オーストラリア」を設立

今から5年前に、オーストラリアの人気を回復する為に俳優の柴俊夫さんと仲間達と一緒にクラブ・オーストラリアを設立した。入会金 1,000 円で年会費はない。現在会員は 1200 名ほどいる。目的はオーストラリアの広報活動や送客である。

主な活動内容

- 毎月第3水曜日の定例飲み会
場所は六本木の「アウトバック」毎回講師をお呼びしてオーストラリアの話をしていただく。参加者は毎回15名前後
- オーストラリア大使館庭でのお花見 BBQ やクリスマスパーティーの実施 200名前後
(ビクトリア州の山火事、QLD州の洪水等のチャリティーを兼ねて)
- ワインセミナー
- オーストラリア旅行 (メルボルン、カウラ)
旅行会社が今まで企画したことのない旅程をスタッフが知恵を出し合い決定約20名が参加する。(ビクトリア州の山火事で多くの動物が被害にあった動物園訪問寄付をする。メルボルンマラソンのウォークに参加、12使徒でサンセット見学)
- オーストラリア・フェア (東中野のトラベルジャーナルの校舎にて2回程開催する)
ゲストスピーカーを招いて講演、オーストラリア関連のミュージシャンのコンサート各教室にてオーストラリアの商品販売、留学・WH・ロングステイ相談会
地下の食堂でワインパーティーなど

オーストラリアの企画 まずは弊社のある地元の中野から発信しよう！

日豪観光交流年の今年、中野に大学が3校、キリン本社がやってくる。オーストラリアをアピールする良い機会である。現在、ブロードウェイ、中野サンプラザ、キリンと弊社でこの中野でオーストラリアに関するイベントが出来ないかミーティングを行っている。あくまで企画段階である。将来的に姉妹都市提携が出来る事を目指したい。

- ① 2013年6月6日(木) 中野サンプラザでオズ・プロジェクト10周年感謝パーティーを開催決定。沢山のオーストラリア関係者に来ていただく。オーストラリアの商品を集める。そこに国際交流協会、中野法人会や商工会議所、ロータリーの人たちにも来ていただき、中野とオーストラリアの関係づくりをしていただく。
- ② ブロードウェイでオーストラリアをアピール
ブロードウェイの天井からコアラをぶら下げる。ポスターを貼る。お客様をオーストラリアご招待。オーストラリア商品販売コーナーを設ける。
- ③ 中野サンプラザの前の広場でオーストラリア・フェアの開催
オーストラリア・ワイン、オーギービーフ、オーガニック商品、旅行、留学/WH、スポーツ等オーストラリア関係団体が出展する。

これからのオーストラリア送客に向けて弊社が出来る事は何か？

オーストラリア専門旅行会社を立ち上げて 10 年目を終えようとしている。皆様のご協力の下でなんとか生き延びている状況である。正直、独立前の方が給料もよかったが今は自由の身であり、上司の許可がなければ出張にも行けない状況ではない。お蔭さまでオーストラリアにも随分と出かけて色々な体験をさせていただいた。今後はこの体験を必ずや生かしていきたいと考える。

① 50 歳の記念イベントに 2 ヶ月間のオーストラリア個人視察旅行実施

普段の添乗や政府観光局主催の研修ツアーでは出来ない体験をする為に 2011 年 12 月～2012 年 2 月に実行した。長年の夢だったメルボルンで生活体験、マレー川カヌーマラソン参加、アボリジニ居住区へ訪問、全豪オープン観戦、お客様と合流してタスマニアとカンガルー島ドライブの旅、シドニー～メルボルン、メルボルン～アデレードへの鉄道の旅、スピリットオブタスマニアでメルボルン～タスマニアへのクルーズ。ブルーム訪問、マーガレットリバーのルーインエステート・コンサート鑑賞など。20 代の若者に戻ったような気持ちで、仲間の家やバックパッカーに宿泊しながら無駄遣いもせず親父旅人を演じた。

大手企業では長期勤続のご褒美に長期間の休暇がもらえる所もあるらしい。是非、我が旅行業界こそ長期休暇を与えて、彼らの好きな旅を私のようにさせてあげたら良いと思う。

② ケアンズ To カルンバ 780 キロ・チャリティーバイクに視察として参加

政府観光局からの要請あり、他社は誰も出してくれないと言われ参加決断する。

300 人近くのオーストラリア人達と 7 日間、サイクリングやキャンプで親交を深める。100 回以上もオーストラリアを訪問しているにも関わらず、これほどまで深くオージー達との時間を共有したことがなかったので、彼らの文化や考え方がわかり勉強になった。例えば、キャンプ場での夕食の時間。テーブルの上にキャンドルを置きワインを飲み会話をしながら夕食を楽しんでいる。かたや自分は、木の切り株に座り黙々と食事をしている。彼らは人生を楽しむ術を知っている。このチャリティーでさえ、楽しんでしまっている。なんとか、このイベントに日本の若者を連れて行きたい！

ちなみに、今年は若者でなく 3 人の会社経営者が今年のイベントに参加表明してくれている。将来的にはこの参加者が中心になって東京から八戸までチャリティーバイクのイベント開催が出来たらいいなと考えている。

③ 親父と息子の絆を深める旅

仕事が忙しくて子供たちとの会話がないう親父は多いと思う。私は息子たちが小学生の頃は少年野球のコーチとして、週末はいつも一緒だった。キャンプや家族旅行も沢山してコミュニケーションは取れていたはずなのに、長男が中学生になって少しグレ始めてから会

話が少なくなり、高校生になると完全に心が離れてしまった状況になった。これはまずい
と思い、長男が19歳の時にキャンピングカーでケアンズからカルンバまでの親子二人の
旅を決行した。息子には「親父と息子の絆を深める旅」商品企画のため付き合っ
て欲しいとお願いして同行してもらった。ケアンズを出発して二人で交互に運
転しながら目的に向う。キャンプ場で彼が作ったカレーライス
を初めて食べる。飯を食ったらすることがないので、近くのバーに飲
みに行き初めて親子でビールを飲んだが、彼は俺よりアルコールに
強いのに気がつく。母親とのオーストラリアの出会いの話や彼のガ
ールフレンドの話や彼の話を聞く。グレートバリアリーフの海を一緒
にシュノーケリングをしたり、真夜中に月の明かりで影が出来る
広大なビーチを歩く。そんな二人の時間が過ごせるなら時間もお
金もおもしろくないと感じた。長男はその後ワーキング・ホリデー
でオーストラリアに渡り一年間ピッキングをしながら車で旅をする。
現在は2ヶ月間の予定でメルボルンのワイナリーで勉強中である。
将来は自分でオージーカフェを営みたいと目的も決めた。いつの日か、
彼のカフェでオーストラリアの旅に出掛けるお客様が集まるよ
うな日が来ることを願っている。

実は今、ダーウィンからアデレードまでの3000キロを20日間かけて
親子でドライブの旅をする企画を考えている。実施は夏休みを狙い、
毎年絆を深めたい親子がやってくるような企画である。

④ これぞ本物のオーストラリアの体験

私は普通では行けないアボリジニー居住区に友人に連れて行ってもらい、3泊する
体験をしたが、宿泊したゲストハウスにはクーラーやテレビ、冷蔵庫もあり、
マルロ・モーガン著作「ミュータント・メッセージ」(全米ベストセラー)1
人のアメリカ人女性が灼熱の大地で体験したアボリジニー族との120
日間の世界とは大分かけ離れていた。それでも、車の前を横切るイグ
アナを見つけた時の彼らの行動には驚かされた。後部座席に乗って
いた年配の女性から車を停めるよう命令、彼女は助手席にいた15
歳の少年に棒を探してくるよう支持すると草むらのある方向を指
差している。車を止めてから既に1分以上は過ぎている。まさか、
あんなところにいるわけがないと思ってみると、少年が棒を振り下
ろした先には口から血を出したイグアナがノビていた。現在では居
住区にあるスーパーにて一本5ドルでカンガルーの冷凍シッポを
購入することが出来るが、まだまだ彼らのハンティング能力は衰
えていないようだ。この後、子供たちと雨で溜った池で水遊びを
している間にたき火を始め、イグアナとカンガルーのシッポを丸
焼きにして食べさせてもらったが、これぞ、まさしくオーストラ
リアでなければ出来ない体験だったと思う。アリススプリングス
から車で300キロも離れた砂漠の中にある村のため、周辺には街
灯もなく、満天の星が美しく沢山の流れ星を見ることも出来た。

アボリジニー居住区でボランティアをしている若者達にも会えた。彼らは
子供達と一緒に勉強したり、絵を書いたり、音楽を聴いたり、ス
ポーツをしたりしていた。日本の若者にもチャンスはあると思
う。大いにチャレンジして欲しい。

⑤ 女性の小グループ ドライブの旅

ここ2年間で同じグループのお客様が4回もオーストラリア旅行をしてくれた。いずれも私がレンタカーを運転してのドライブの旅である。60代、70代の女性4人~6人のメンバーで、第1回目はダーウィン、カカドウ国立公園、キャサリン渓谷の8日間の旅。ダーウィンの友人宅で夕食をご馳走になり、彼女の友人のマンゴ農家に寄らせていただいたり、ジムと一緒にエアロビクスをしたりと大自然と人との交流がミックスされた面白い旅だった。第2回目はタスマニア一周の10日間の旅。雨にたたり、川の洪水で旅程を変更したりトラブルの多い旅であった。汚れた車をお客様が掃除してくれたのは嬉しかった。第3回目はメルボルンから鉄道でアデレードへ移動。カンガルー島での2泊3日のドライブの旅。多くの野生動物と遭遇した。アデレードでは無料の自転車を借りてリバーサイドをビーチに向かってサイクリング。天気も良く皆さん大満足。第4回目は西オーストラリア・ワイルドフラワー11日間。世界遺産のシャークベイまで花を探して往復1600キロのドライブの旅。旅程中はスーパーマーケットで食料を調達して私とアシスタントの息子と二人で料理も作った。モンキーマイヤーリゾートではテニスをしたりシーカヤックを漕いだりとリゾート・ライフも体験した。

大人数のパッケージツアーにはない自由な旅のスタイルである。しかも専属の添乗員&ドライバー&コックが同行している。言葉の不自由はないし、レストランの場所も探す。痒い所に手が届く旅である。旅行代金は安くはないが楽しんでいただけたからこそ、弊社を使って4回もオーストラリアを旅行してくれた。「感動のある旅」「思い出に残る旅」が少しは提供出来ているかもしれない。

⑥ インバンドもあるぞ！！

9月にシドニーから女子野球のチームが来日して交流試合を予定している。弊社では、対戦相手を探し、宿やバスの手配をしている。私は過去にも3回ほどシドニー野球チームのお世話をしたことがある。第2次世界対戦中にNSW州のカウラには日本兵の捕虜収容所があり、脱走事件で240名弱の日本兵と4名のオーストラリア兵が亡くなるという事件があった。現在このカウラには日本兵のお墓があり、カウラ市民が管理してくれている。日本兵は草野球をしていたということから、日本の高校生野球チームをカウラに連れて行きスポーツ交流をしたことがある。そのお礼にと直江津市にあるオーストラリアの捕虜収容所があった記念公園にシドニー

野球チームが来てくれて、直江津高校の野球部と交流試合が実現した。

先日は白馬スキー場に視察も行った。宿泊したホテルはオーストラリア人とロシア人だけで、日本人は私と従業員だけであった。夕食に訪れた焼肉屋、客はオーストラリア人で満席。従業員もオーストラリア人であった。ホテルの方に何故にこのような状況にとお聞きしたところ、ニセコがあれだけの人気が出たのだから白馬にもチャンスがあるはずだと7年前にオーストラリアに営業に出かけたとのこと。一步踏み出したからこそ、このよう

に結果が出ている。こうしてオーストラリア人が日本に興味を持って来てくれていることに感謝したい。日豪交流を盛んにすることにより、多くの日本人もオーストラリアに興味を持ちはじめ、いつの日かオーストラリアへ訪問してくれるだろう。

まとめ

塾を通じてこの一年間で多くの旅行会社の先輩や若者と仲間になる事が出来た。これが私の一番の財産である。個々で出来る仕事などはたかがしれている。オーストラリアに関する情報、ネットワーク、そして私自身の体験を宣伝力がないばかりに全く生かされていない状況であるのが歯がゆい。今後は、**各社の強みを生かしてチームを組んで**の仕事が出来たら良いかと熱望している。皆さんの智慧をお借りして多くに日本人にオーストラリアの魅力を感じて頂けるような仕事をしていきたい。